緊急対応マニュアル

万が一、事故が発生したときには、慌てず冷静沈着に状況を確認して、的確な判断を下し、早急な応急措置を行い、関係機関に連絡を行うことが大切です。
スタッフの全員が、以上の動きを確実に行うためには、緊急時対応マニュアルを作成し、すぐ手にとって見ることができるように、貼り出しておきましょう

救急手当てから連絡まで

① 周辺状況と傷病者の観察
事故の際、周辺の状況と傷病者の全身を観察して、状況を把握します。

② 救急車の手配と応急処置
「１１９番」あるいは医療機関に場所や状況を伝えて、応急処置の指示を受けます

③ 救急車到着までの対応
- ●応急処理を続けましょう
- ●保温に努めましょう
- ●協力者をさがしましょう
- ●可能であれば安全な場所へ移動させましょう
- ●声かけを行い励まし続けましょう
- ●救急車が到着した際に誘導しましょう

④ 事故等の連絡（重大な事故の場合は）
警察署や保健所（食中毒）、消防署等へ連絡します

⑤ 記録を残す
日時、場所、程度、証拠品の確保、対応状況など忘れないように記述します

⑥ 関係者への連絡
家族など緊急連絡先へ一報します

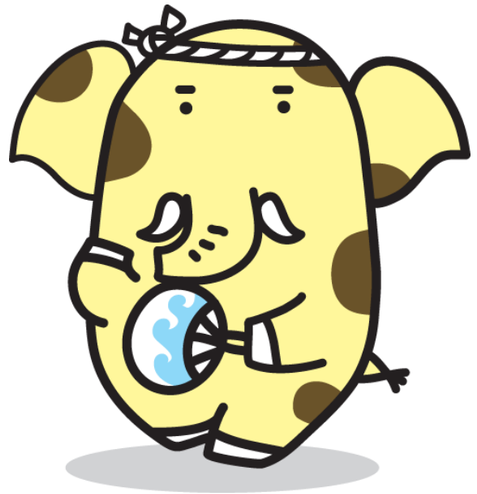
⑦ 保険会社へ連絡
名前、住所、連絡先、状況を報告します

⑧ 事故レポートの作成
記録を元に正確にレポートを作成します

事故を起こさないために！

イベント・祭り・大会

主催者のための 運営体制・事前安全管理



新座市イメージキャラクター
ゾウキリン

イベント等における事故のほとんどは、一瞬の油断や判断の遅れ、気の緩み、不注意などによって起こっています。
事故を未然に防止する万全な安全管理体制づくりをしていきましょう。

新座市　危機管理室

主催団体の安全管理責任者の配置

事故が発生した際の安全管理責任に関する範囲の明確化が、重要になります。運営に関わる全スタッフの安全管理に対する意識レベル向上させましょう。

ボランティアスタッフなどで、事業を運営していても、事故が発生した場合、事故を未然に防ぐための注意義務を怠り、主催者の過失があると判断されれば、ボランティアであっても安全管理責任が発生し、法的責任に問われることがあります。

□ **安全管理責任者の配置**　　□ **保険に加入**（責任の範囲を明確化）

スタッフ対する安全教育の実施

全てのスタッフが、安全に対して十分な知識と、対処方法を習得するための安全教育を実施することが大切です。主催者側で安全教育ができない場合は、消防署や日本赤十字社での講習又は指導を受けましょう。

□　**各スタッフの選任**　　□ **消防署又は日本赤十字社に事前相談**
□　**安全教育の実施**

救護室の設置

万が一に備えて、救護室が必要です。スタッフルームとは別に一区画を設けましょう。プライバシーの問題もありますので、カーテン等で仕切ることも必要です。

□ **救護室の設置**　　□ **医療従事者の配置**（医師又は看護師）
□ **救急セットの準備**　□ **ＡＥＤの準備**

雨天時等の対応とプログラムの変更

イベントの内容によっては、雨天の場合、開催が困難又は危険が予想されるときは、事前に中止するか､時間を短縮する必要があります｡事前に雨天プログラムの準備を用意し、当日、速やかに変更できるように、安全管理責任者が決定しましょう｡「せっかくだから」「ほんの少しなら大丈夫」という甘い考えは捨てましょう。

□ **雨天時のプログラムの準備**　　□ **短縮・中止の決定**

気象災害情報で的確な対処

大雨や大雪、強風（竜巻)、雷、気温などによって引き起こされるのが、気象災害です。万が一の異常気象に見舞われた場合に備え、行動プランを用意しておきましょう。開催前に天気予報をチェックし、悪天候が予想される場合は、延期又は中止を早めに決定しましょう。

また、開催中であっても、今後、気象災害が予想される場合は、その時点で中止を決定し、安全な場所に誘導するようにしましょう。

□ **台風**（看板やベンチ固定又は片づけ）
□ **集中豪雨**（浸水・道路冠水・河川の水嵩に注意し、建物に逃げ込む場所の確保）
□ **土砂災害**（土石流・崖崩れ・地滑りなど危険箇所の事前調査）
□ **河川の増水と氾濫**（河川・小川・用水の氾濫に注意し、高台避難場所の確保）
□ **停電や断水**（携帯ラジオ・懐中電灯・飲料水・発電機の用意）
□ **竜巻**（建物に逃げ込む場所の確保）
□ **落雷**（雷雲・雷鳴の予兆は直ぐに中止し、建物に逃げ込む場所の確保）

火気器具等を取り扱い

平成２５年８月１５日、京都府福知山市で開催された花火大会において、死者３人、負傷者５６人という甚大な被害を伴う火災が発生しました。この火災は、露店関係者が発電機にガソリンを補給しようとしたところ、ガソリン携行缶からガソリンが噴射して、周囲の観客に降りかかるとともに、露店の方向にも噴射し、露店で使用していたガスコンロが出火原因の一つであると考えられています。

イベント等で、火気を使用する場合、主催者は、まず「防火安全対策は、自己責任の下で自らが用意周到に行う」ということを念頭におくことが重要となります。

□ **消防署へ事前相談**　　□ **消火器の準備**
□ **自己点検チェックシートにより確認**
□ **消火器の使用方法をスタッフ全員が事前に確認**
□ **防火担当者の選任**

次回への開催に向けての報告

開催中、冷や汗が出たような出来事や、ハットして慌てた出来事などは、いつか大事故につながりかねませんので、しっかりと危険回避の対策のため、関係者全員で共通認識として捉えることが重要となります。

□　**報告書の作成**

【報告書例】〇作成者氏名　〇発生日時　〇ヒヤリ、ハットした出来事（・誰が　・どこで　・何をしていた　・どん状況になったか　・考えられる原因は）〇今回 ・事故にいたらなかった理由　〇今回の状況は以前にも起こったか　〇実際に事故になった場合の処置は